



旅するがっこう 旅するヒミツ基地

夏の北海道 馬やヒツジと森づくり

NPO法人 くにたち農園の会
東京都国立市谷保5119
やぼろじ内（事務局）
連絡先：042-505-7200
kunitachinouen@gmail.com

「日本海側の沼田地方」から始まり、「北海道のへそと呼ばれる富良野」、「太平洋側の苫小牧」と道内を大移動した旅。同じ北海道といえど、それぞれの地域で気温や湿度が違うこと、森の感じの違いも実感しました！！



○沼田そらち自然学校（7/31-8/2）

沼田地域は冬になると一階が雪で埋め尽くされるほどの豪雪地帯。木の幹がぐにやりと曲がっていて、理由を聞くと雪の重さが原因と教えていただきました。見上げると木にリボンがついていて、聞くと雪が積もった高さだそう。冬に行くのが楽しみです！露天風呂からホタルを見たり、開拓途中の森で遊ばせていただきました。みんなが遊んだことによって、地面が踏み固められ、草が生えにくくなることや、動物にはつばをあげることで森を整備していることなどを教えていただきました。



○富良野西岳（8/2）

軽登山と聞いていたはずが、初っ端から本格的な登山！整備された登山道ではなく、整備道を歩き、自分が歩きたい速さのチームで楽しみました。

○苫小牧（イコロの森） 8/2-7

今回で4回目になる、イコロの森。慣れている経験者の子も増えてきて、上手にリーダーシップを取り、みんなでの生活がスタート。

カヌーやsupをした美々川は、かつてアイヌの人たちが日本海と太平洋を行き来していた川だそうで、土地の歴史に思いを馳せました。内藤牧場・ポラーナの杜では、BBQやちょうちん作り、ポニーリヤカー馬車を楽しみました。あんがす牛のおいしさを堪能し、牧場見学へ。メス70頭に対し、オスは1頭。放牧で自然に繁殖させていることや、生まれてから2～3年で出荷されること。「いただきます」の手前にある世界に触れました。

現地のスタッフからは、前回と比べて、食材の量は増えていたが、ガスの使用量が半分だったことを聞きました。焚き火でご飯作りをしたからなのですが、焚き火でご飯を作るときに使う木は、森の中で折れそうな木を切って、薪にしていること、燃やして出た灰は、森に撒くと、森のエネルギーになること。この循環は「ガスだとうちはいかないんだ」との言葉から、森や環境とのつながりを実感しました。

お互いに助け合い、協力し、みんなで気持ち良く生活するためにはどうしたら良いか考え、様々なところでたくさんのドラマがありました。お友達やスタッフとの関係性の中で、慣れないことにもチャレンジできたり、背中を押し合えたり、感謝を伝え合う中で生まれる自然な繋がり。また一緒に旅をしましょう！

